

號百第題改日五十月八年三十二和昭 勤勞夕ムス 可認物便郵種三第(二)

（二面より）
「これ等は眞つ赤な「ウソ
萬八」であり罪の轉嫁はズ
タオヤヂの常套奸策あると
云はれシミツタレ、獨善的
アツシヨ型は恐らくヒツ
トラーも顔だけだらうと云
つてゐる。

ケラレタ市役所
への十万圓

スルメの不正事實が天下
に暴露して以來市民の(◎)に
對する疑惑と監視は極度に
尖銳化して市公安委員會へ
連日マイ込む投書や情報だ
けでも相當數に迄達したと
云はれる

(◎)市場が閻小荷物押收物資
並に列車摘發物資の指定配
給所として出發した二月十
三月迄の總配給金高は公稱
約三百五十六万圓と云はれ
警察取上高が三百六萬圓で
取扱ひ指定所への規定手數
料五分の算定よりなる十
七萬圓を差し引いた差額金
が三十五萬圓と公表され
てゐるが、これは飽く迄公
表である、總務さへも解ら
ぬ伊藤氏個人の公表でもあ
る當時特に列車摘發の際は
必ず(◎)が直接これにタツチ
してドサクサにつけ込んで
の量目のゴマカシは半公然
とやられ五百瓦の端數のカ
ツトも公認されて居りあれ

はさむかれるものとなつた
奇をか發見され同主任の取調へ
はまぬかれぬものとなつた
治大學政經部長經濟學博士
八月十一日小學校講堂で朋
小畠憲氏を招き講演會を開いた、町議はじめ各層の聽衆五百余大さな感銘を受けた、次々と名士を招いて講演會を開くとの町當局の話
町民は大いに贊意を表してゐる

七夕納涼 素人のご自慢 藝能大會

七夕祭りを盛大に送るため平市一丁目商店會主催で素人のご自慢藝能大會を樂園ニユーハワイアンサンブル人を招いて開催、參加者には賞品を進呈、夜は日東商會階上に映寫機を取り付け母を訪ねて三千里の夜外映畫を行なつた

「二十一の指紋」 映畫 十七日より

植田町では町民に自治体精神の本質を徹底せしむべく

植田町で自治講演會開催

「シミキン探偵王」
松竹絶賛の喜々快々の大活劇
十七日より
主演 シミキン
堺 駿二
大坂 志郎
朝霧 鏡子
江戸川蘭子
平 譲
館 樹
主 演 片岡千恵藏
二役 喜多川千鶴
世界館

十六日より
戀も愛も犠牲にして
心から農村に愛情を捧げる
若き醫師の記録！
「わが愛は山の彼方に」
主演 池部良
河崎三浦光子
中北千枝子
平東寶保

浪界の女將 宮川月枝一行		八月二十日 ハリの御用 ベーカリ東京堂
平市十五丁目 平市十五丁目		平市才穂小路 電呼二六五
假設 三夜劇場 小観興行社		平市世界館前 マルヨ自轉車部 マルヨ修繕販賣 マルヨ商店
古書部も御利用下さい 事務用と文房具 學用品と紙製品		平市中央通り サービスの店 お益提灯賣出し
半尾張屋 平市五丁目十九 電録九四七番		マサコヤ百貨店 當選御禮 電話四六番
東北最初の プロ拳闘選手権大試合		八月二十二日夜六時半 場所 平市三丁目特設リング
四回戦 長島友光—小笠原壽雄		八月二十二日夜六時半 場所 平市三丁目特設リング
四回戦 本城靖夫—福島吉夫		八月二十二日夜六時半 場所 平市三丁目特設リング
同 露崎彌太郎—豊田和雄		八月二十二日夜六時半 場所 平市三丁目特設リング
六回戦 北村淑(新和)—増村雪一(赤羽)		八月二十二日夜六時半 場所 平市三丁目特設リング
六回戦 堀口喬久(堀口)—大畑廣(新世界)		八月二十二日夜六時半 場所 平市三丁目特設リング
八回戦 大野正一(新興)—高野立(日東)		八月二十二日夜六時半 場所 平市三丁目特設リング
(日本バンタム級選手権保持者) 十回戦 堀口廣(堀口)—牧野猛(城南)		八月二十二日夜六時半 場所 平市三丁目特設リング
(リンクの王者ビストン堀口) 十四戦 堀口恒男(堀口)—松本圭一(日東)		八月二十二日夜六時半 場所 平市三丁目特設リング
司會者 川 古 市 和 德 木 正 夫		八月二十二日夜六時半 場所 平市三丁目特設リング
服務 鈴木耳鼻醫院長 鈴 木村外科醫院長 木 村 木 村 木 村 木		八月二十二日夜六時半 場所 平市三丁目特設リング